

温故知新

日野歴史探訪

私たちの住む日野町には、52の大字があり、それぞれの地域が豊かな自然と歴史文化で彩られています。温故知新では、町内各大字の歴史と代表的な文化財をシリーズで紹介していきます。

大字小御門

大字小御門は、必佐地区の中央やや東寄りに位置し、区域の南端近くを出雲川が西流しています。その出雲川右岸を中心とする緩やかな扇状地が区域の南半分を占め、北半分は中位段丘面が占めています。

名の由来は、江戸時代の地誌である『蒲生旧趾考』によると、南北朝時代に亀山天皇の第5皇子である五辻宮守良親王が、小谷山城主蒲生氏を頼り、当地に居住し、後に同親王が小御殿と称されたことが由来であるとされています。

また『蒲生一郡記』では、当村はもと中村といい、出雲川の水が入り込むことで「込門」と俗称したとされています。

江戸時代には、東海道の土山宿(甲賀市)と中山道の小幡(東近江市)の間を結ぶ脇往還(後の御代参街道)が区域を通り、人や物の往来が頻繁だった様子うかがえます。

古代から中世の小御門

古墳時代の終わりごろにかけて、数多くの古墳が造られました。大字小御門字山に存在する小御門古墳群は、丘陵上に立地する六世紀後半から七世紀初頭の遺跡で、昭和40(1965)年に、3〜4基で一群をなす、合わせて10基の円墳が発見されました。この発掘調査は、日野町で初めて行われた専門家による本格的な調査でした。

その内の1基は、複数の柱と梁桁からなる骨組みと、壁に粘土を用いた土蔵のような部屋で火葬を行い、それに土をかぶせた「横穴式木芯粘土室墳」という特殊な構造の古墳でした。この時期の一般的な古墳が石室を用いたのに対し、その構造の違いや、仏教的な要素の強いとされる火葬が行われていることから、渡来系の集団によって造られたものと考えられています。



〈小御門古墳群〉

中世になると、出雲川の右岸段丘上の平地である大字小御門字城屋敷に居館的機能が主体の小御門城跡が出現します。

昭和57年以降に行われた発掘調査で、溝跡から出土した黒色土器・陶器・輸入磁器・木製下駄などにより13世紀前半を中心とした12世紀後半から16世紀の遺跡であることがわかりました。

築造当初、一辺が約100メートルのほぼ方形の主郭と、東方に約70メートルの堀で区画された台形の付属施設から構成されていたとされる小御門城は、15世紀に行われた改修によって、東西約155メートル、南北約100メートルの規模になったと推定されています。

この改修では、堀の付け替えや延長などによる城内の拡張や、主郭に2条の堀を新設するなどの大改修を行っていることから、複数の堀と土塁によって防衛機能を高めた平城的機能を備えたことがわかっています。

中世の主要な街道をおさえる立地であることから、蒲生氏との関係が考えられます。



〈小御門城跡〉

◆問い合わせ先

近江日野商人ふるさと館「旧山中正吉邸」

☎0748-5210008



みんなのとしよかん



本の紹介

『たぬきの本 里山から街角まで』

村田哲郎ほか／著 共和国

民話にもよく登場し、日本では古くから親しまれてきた動物、たぬき。そんなたぬきに魅せられた著者たちが動物園のたぬき、たぬきの飼育、信楽狸、たぬき寺、たぬきイメージの変遷などさまざまな観点から熱く語ります。たぬきの魅力にあふれた一冊です。



12月

月	火	水	木	金	土	日
			1	2	3	
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

1月

月	火	水	木	金	土	日
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

- …休館日 ○…えいが会 ◇…託児サービス
- …おはなし会 □…おひざでだっこのおはなし会

日野町立図書館

☎0748-53-1644 FAX 0748-53-3068

図書館の本は、お近くの公民館でも返却していただけます

行事予定

※行事・サービスは中止する場合があります。

【おはなし会】 12月2日(土)、9日(土)、23日(土)
10:30~(15分程度)

【おひざでだっこのおはなし会】
12月16日(土)11:15~(20分程度)
3歳くらいまでの親子を対象に絵本や手遊び、わらべうたなどをしています。

【託児サービス】 12月13日(水)、20日(水)
10:00~12:00 対象:0歳から3歳

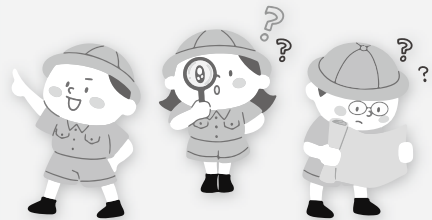
【えいが会】 12月17日(日) 14:00~
『すばらしき世界』2021年/日本(126分)

図書館からのお知らせ

○図書館クイズラリー「図書館クラブからの挑戦状」

日時 12月24日(日) 10:30~12:00

申込期間 12月17日(日) まで



毎年、日野中学校の生徒に向けて講演をする機会をいただいています。今年は9月下旬に、3年生を前に直接思いを語らせていただきました。テーマは「まちづくり」なのですが、話の大部分は「日野町と我々の先人が、いかにすごいか」という内容にしています。

現在に至る伝統行事・自治組織・町並みなど、町の基礎をつくったのは江戸時代の日野商人をはじめとする先人たちです。北関東を中心に全国で活躍し、日野椀や合葉の販売、現地では醸造業等に携わり、今でいうコンビニ経営のような多店舗経営(千両店)を行いました。当時画期的な商人組合を組織するなど多くの商法を生み出し、全国長者番付にも数多く名を連ねました。まさに日本経済の中心にいたのが日野商人です。

青雲之志

~町長コラム~

日野町長 堀江 和博

日野町の誇りある先人たち

性(せい)と倫理性(りんせい)を両立する精神性です。日野商人が重視した徳目(とくめい)は「陰徳善事(いんとくぜんじ)」です。陰ながら世に尽くす思想からは、神仏への信仰心の篤(あつ)さも伺えます。いわゆる「三方よし(さんぽうよし)・売り手よし・買い手よし・世間よし」を含め、現代のSDGs(エスディージーズ)よりも200年以上前から、我々の先人は最先端の経営をやってきました。

明治22年には全国で町村制が施行され、滋賀県は6町189村で成立しましたが、最初の6町は大津町、彦根町、長浜町、八幡町、八日市町、そして日野町です。当時最先端施設であった郵便局や女学校(現日野高校)は、大津に次いで県内2番目に設置、また近江鉄道設立にも尽力し、二代目社長は日野商人です。

以上は話の一部ですが、そんな話を資料をまじえ延々と語ります。最後には「こんなにすごい先人の血を引いている君たちは、日本中いや世界中で活躍できるから自信を持って勉強に部活にがんばってほしい」と激励します。そして「ふるさと日野町をずっと大事にしてほしい」と締めくくります。彼ら彼女らには、日野町に生まれたことを誇りに思い、がんばってほしいと思います。